

## 1

## 大鵬薬品工業株式会社

	各社の考え方
① 算定を行う背景・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大鵬薬品では環境方針を定め、研究開発から生産、物流、販売、廃棄に至る全ての事業活動を対象に地球環境の保全と環境負荷の低減に積極的かつ継続的に取り組んでいる。その中で、事業全体の環境への影響を把握することを目的としてScope1, Scope2だけではなくScope3の算定を実施した。</li> </ul>
② 算定結果の活用方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 温室効果ガス削減目標 についてScience Based Targets (SBT) の認証取得した。</li> <li>● バリューチェーン排出量を可視化し、自主的に公表することにより、バリューチェーンを構成する他の事業者等をはじめ、ステークホルダーに対する説明責任を向上させる。</li> <li>● CDPなど各種アンケート等への回答に活用する。</li> </ul>
③ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>● バリューチェーンのカテゴリごとに排出量を算定・把握することによって、バリューチェーンにおいて排出量の大きなカテゴリや排出削減のポテンシャルが大きい部分が明らかになり、バリューチェーン全体で効率的な削減対策が実施できる。</li> <li>● バリューチェーンを構成する他の事業者へ情報提供を働きかけることにより、それら事業者と連携を図り、バリューチェーンを構成する事業者間で協力して温室効果ガスの削減を進めることができる。</li> </ul>
④ 社内の算定体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社内の関連部署より活動量のデータを収集し、総務部環境推進課が算定する。</li> </ul>

## 2

## 大鵬薬品工業株式会社

	各社の考え方
⑤ サプライチェーン 排出量の削減に 向けて	<ul style="list-style-type: none"><li>● 容器包装の削減やWeb会議の導入による出張の削減など、取り組みやすい項目から順次、排出削減の取り組みを行う。</li><li>● エコカーを導入し、社用リース車の燃費向上を図る。</li><li>● 輸送部分については、グループ会社と協力してモーダルシフト等を進める。</li></ul>
⑥ サプライチェーン 排出量算定の 課題	<ul style="list-style-type: none"><li>● 全てのデータを完全に網羅しているわけではなく、算定可能なデータおよび重要なデータで算出している。</li></ul>
⑦ その他 (任意)	

## 3

## 大鵬薬品工業株式会社

カテゴリ	算定方法	※算定対象期間：2020年1月～2020年12月
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 原材料・資材の調達量	● 購入物量・金額あたり原単位※
カテゴリ2「資本財」	● 資本財の調達金額	● 購入金額あたり原単位※
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	● 燃料、電気、蒸気のエネルギー使用量	● エネルギー量あたり原単位※ ● 燃料種別原単位※
カテゴリ4「輸送、配送（上流）」	● 荷主分の輸送に係る燃料使用量 ● 購入した製品サービスに関する輸送量	● 省エネ法の報告値※ ● 輸送シナリオのトンキロ※
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 廃棄物種類別排出量	● 廃棄物種類別原単位※
カテゴリ6「出張」	● 交通手段別交通費支給額	● 交通費支給額あたり原単位 ※
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 交通費支給額	● 交通費支給額あたり原単位※
カテゴリ8「リース資産（上流）」	● 社用リース車の燃料使用量	● 燃料種別原単位※
カテゴリ9「輸送、配送（下流）」	● 下流配送における推定トンキロ	● 輸送シナリオのトンキロ※
カテゴリ10「販売した製品の加工」	● 非該当	●
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 非該当	●
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 製品の容器包装	● 廃棄物種類別原単位※
カテゴリ13「リース資産（下流）」	● 非該当	●
カテゴリ14「フランチャイズ」	● 非該当	●
カテゴリ15「投資」	● 利益を得るために投資を行っておらず、金融サービスを提供する事業者でもないと判断したため、算定対象から除外	
「その他」	● オプションのため算定範囲から除外	

# 4

## 大鵬薬品工業株式会社

### サプライチェーン排出量算定結果

